オオゴキブリ　*Panesthia angustipennis spadica* (Shiraki)

【選定理由】

良好な自然林（二次林を含む）の朽木中に生息しているが、森林伐採などで生息環境が縮小されている。南方系の種であることから平野部に分布の主体があるが、三河山間部からも知られている。なお、昨今の温暖化により土地の乾燥化が進み、本種の生息する樹林林床の枯朽木の状態が悪化していることで、本種の存続に負荷がかかっている模様である。

【形　態】

体長は 37～41mm。体は太く、光沢のある漆黒色。前胸背は前部と中央に小突起を有する。枯朽木内など狭い空間に住んでいるため成虫の翅は擦り切れていることが多い。

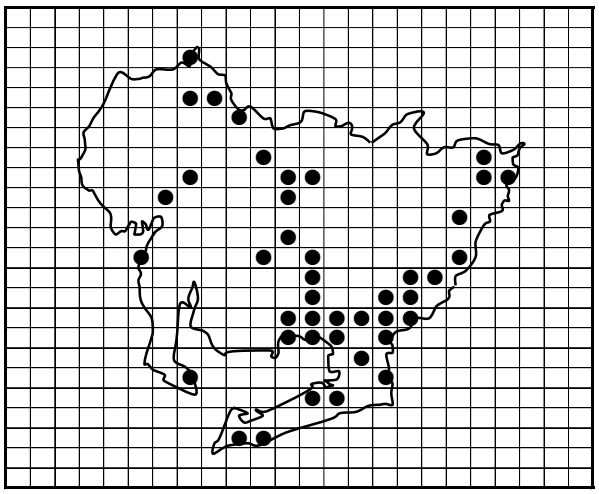
【分布の概要】

【県内の分布】
愛知県では比較的各地から記録されているが、河川に沿って内陸に分布を広げているようである。

【国内の分布】
本州、四国、九州。海岸線に沿った地域に多い。

【世界の分布】
台湾。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

県内では主として海岸線に近い照葉樹林に生息しているが、環境適応性の幅も広く、落葉広葉樹林や針葉樹林にも生息している。生態については朽木内で坑道を掘って家族生活をしている以外ほとんど何も判っていない。

副次的ながら、本種は他の南方系種類、特に枯朽木内など類似の環境で生活する外国産クワガタムシやカブトムシ類の「越冬可能地」推定のための「指標種」にもなり得るかと思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

朽木内生活のため、発見・確認に手間はかかるが、かならずしも個体数は少なくない。ただし、県内の主要分布地が平野の樹林であることから、開発によってその生息環境が失われていく状況は続き、楽観は許されない。なお、温暖化による枯朽木の過度の乾燥化は不利であるが、本来が南方系の本種にとって温暖化は有利かとも思われる。

【保全上の留意点】

残された樹林を林床と共に保全することが最大の保護につながると考えられる。

【関連文献】

朝比奈正二郎, 1988. 日本産ゴキブリ分類ノート, XVII. オオゴキブリ族の種類. 衛生動物, 39 (1): 53-62.
朝比奈正二郎, 1991. 日本産ゴキブリ類. 中山書店, 東京都.
旭 和也ほか, 2016. ゴキブリ目. 日本直翅類学会（編）, 日本産直翅類標準図鑑: 75,223. 学研プラス, 東京.

（水野利彦）